

フロイント産業株式会社
STANDARD
TOKYO
(証券コード6312)

2024年2月期 第3四半期
決算説明資料

2024年1月19日

 **FREUND**

2024年2月期 第3四半期
連結決算概況



連結決算サマリー

売上高

売上全体としては概ね予想通りに推移

- 機械部門は、コロナ禍および関連する納期遅延から米国子会社Freund-Vectorが回復し、増収
- 化成品部門は、医薬品添加剤および品質保持剤とも前年を上回る進捗

利益

- 化成品は底堅く推移するも、Freund-Vectorで過去受注した案件にて納期長期化の影響から採算悪化となり損失が発生、3Q単独では損失を計上

(単位：百万円)	2023/2月期 第3四半期累計	2024/2月期 第3四半期累計	前年比増減		2024/2月期 予想
				%	
売上高	12,504	14,170	1,666	13.3%	20,000
営業利益	45	118	73	161.5%	700
経常利益	132	125	△7	△5.1%	650
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1	54	53	—	450
一株純利益（円）	0.06	3.24	3.18	—	26.87
減価償却費	410	404	△6	△1.6%	—
研究開発費	463	491	28	6.1%	—

機械部門：概況

売上高

- 国内は3Q時点まではやや低調ながら、今期も4Qに売上が偏重している
- 海外は回復途上にあるFreund-Vectorが貢献、国内減収分をカバーし、前年比増収

営業利益

- Freund-Vectorの不採算案件が影響し、2Q黒字から営業損失となった

受注・受注残高

- 受注は、国内ジェネリックメーカーの大型設備投資活発化を背景に引き続き好調を維持
- 海外も大型案件受注により前年を超過
- 受注残高は前年比大幅増、依然高い水準にあり

(単位：百万円)	2023/2月期	2024/2月期	前年比増減	
	第3四半期累計	第3四半期累計		%
売上高	7,783	9,056	1,273	16.4%
営業利益	△263	△76	186	—
受注高	11,655	13,747	2,092	18.0%
受注残高	15,365	18,012	2,647	17.2%

機械部門：グループ会社別動向（売上・営業利益）

フロイント産業	国内売上は3Qまでやや低調ながら、4Qに積み上がる計画 比較的好採算のメンテナンス・部品売上伸長により、利益面改善
フロイント・ターボ	前年比微減ながら、底堅く利益を計上
Freund-Vector	前年度の部材調達長期化や出荷遅延、原材料高騰に伴う採算悪化から 回復基調にあるものの、不採算案件の影響から3Qで赤字を計上
Cos.Mec	前年比増収減益なるも、計画通りに推移

(単位：百万円) グループ会社別は連結調整前	2023/2月期	2024/2月期	前年比増減	
	第3四半期累計	第3四半期累計		%
売上高	7,783	9,056	1,273	16.4%
フロイント産業	3,354	2,982	△371	△11.1%
フロイント・ターボ	1,229	1,160	△69	△5.7%
Freund-Vector	2,843	4,289	1,446	50.9%
Cos.Mec	791	873	81	10.3%
営業利益	△263	△76	186	—
フロイント産業	66	72	6	9.5%
フロイント・ターボ	49	35	△14	△29.2%
Freund-Vector	△343	△139	203	—
Cos.Mec	9	△56	△66	—

機械部門：グループ会社別動向（受注高・受注残高）

フロイント産業	受注高は、国内ジェネリックメーカーの大型設備投資活発化を背景に前年以上の受注を確保し、受注残高は過去最高の128億円
フロイント・ターボ	受注高は大口案件が含まれた前年度に比すれば今年は減少したのに対し、受注残高はほぼ前年並
Freund – Vector	売上進捗から受注残高は前年比大きく減少も、3Qでの受注は22億円と好調
Cos.Mec	新興国を中心に案件を獲得し、受注高、受注残高とも前年度を大きく上回り、好調を維持

(単位：百万円) グループ会社別は連結調整前	2023/2月期	2024/2月期	前年比増減	
	第3四半期累計	第3四半期累計		%
受注高	11,655	13,747	2,092	18.0%
フロイント産業	7,252	7,775	523	7.2%
フロイント・ターボ	1,147	919	△228	△19.9%
Freund-Vector	2,988	3,903	915	30.6%
Cos.Mec	421	1,207	786	186.7%
受注残高	15,365	18,012	2,647	17.2%
フロイント産業	9,084	12,803	3,719	40.9%
フロイント・ターボ	756	738	△17	△2.4%
Freund-Vector	4,725	3,085	△1,639	△34.7%
Cos.Mec	924	1,515	591	64.0%

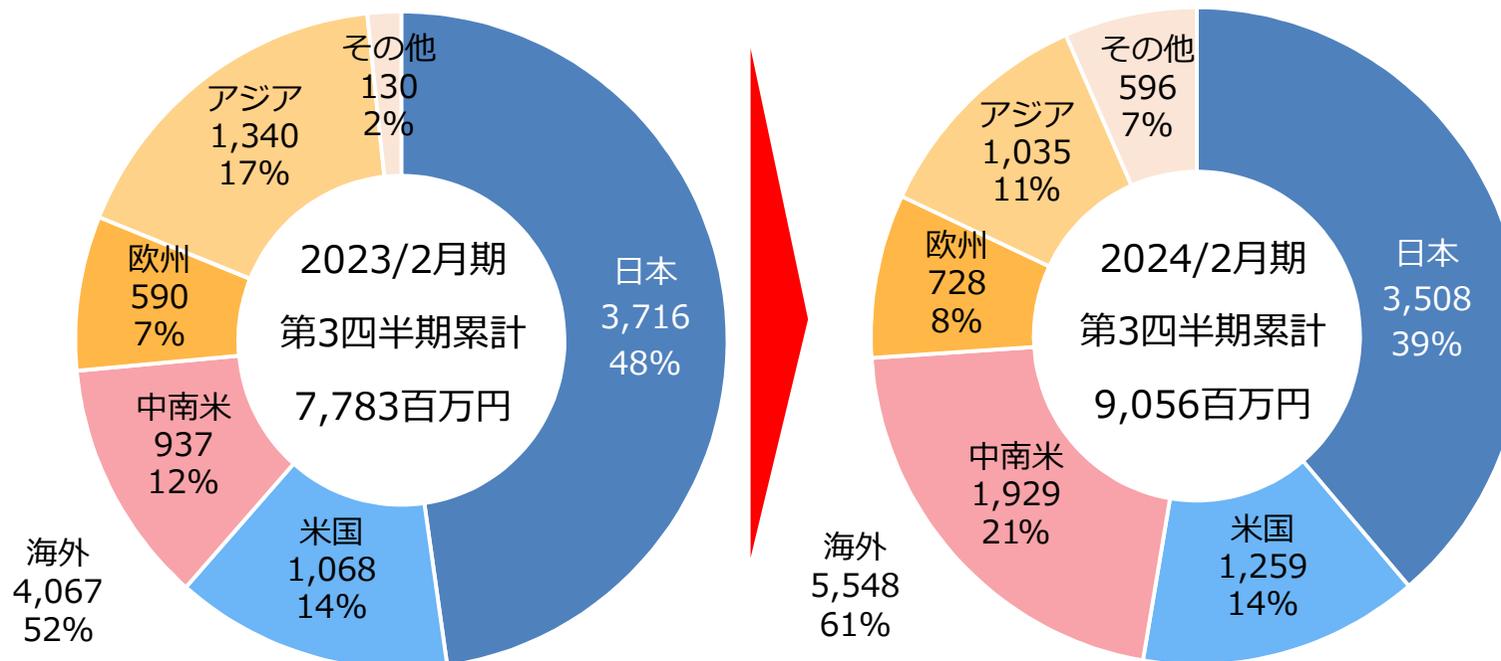
機械部門：地域別売上高

国内

前年比減収ながら、4Q売上偏重にてほぼ計画通りに推移

海外

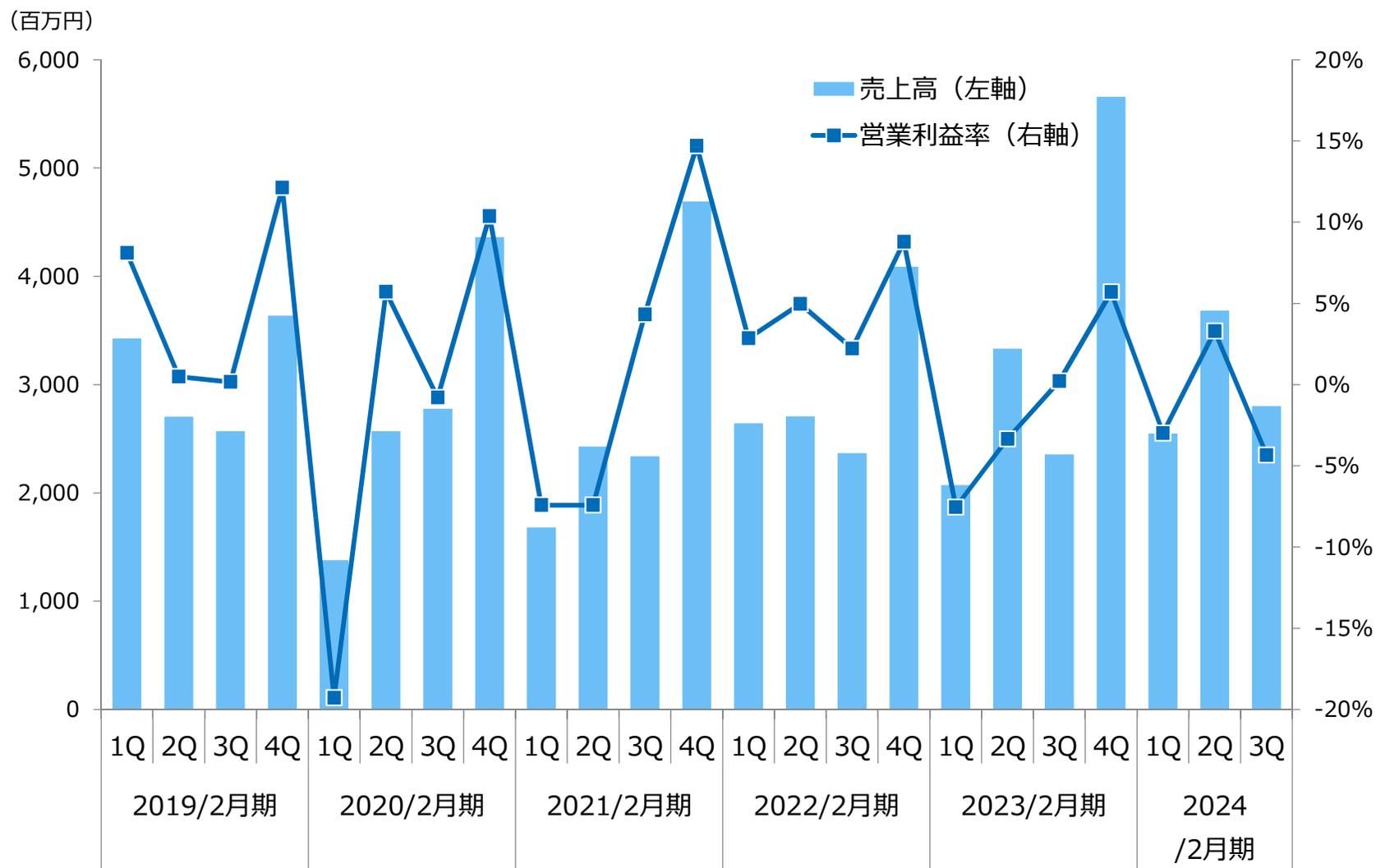
- 前年比36%増の55億円の売上を計上し、海外売上高比率は円安要因も加わり2Qに続き60%超え
- 中南米の売上増が大きく牽引、その他（中東、アフリカ）も増収に貢献



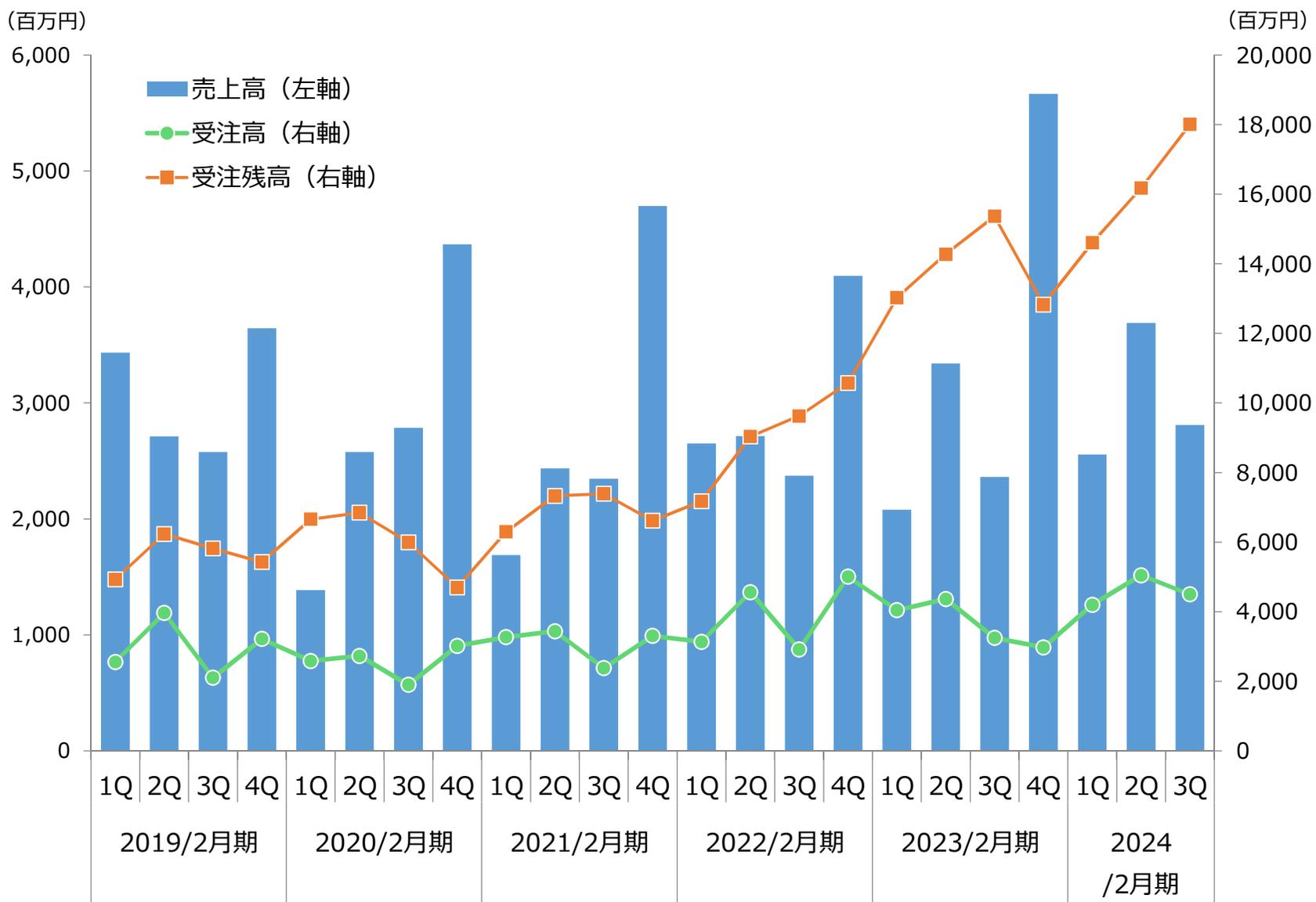
機械部門：四半期推移

【売上高】

【営業利益率】



機械部門：四半期推移（売上高・受注高・受注残高）



化成品部門：概況

売上高

過去最高の売上を記録した前年度を上回り、堅調に推移

医薬品添加剤：主要製品が引き続き好調の結果、増収

食品品質保持剤：ネット通販のパン向け需要の伸びは鈍化したものの、前年を上回る

輸出：一部ユーザーの生産調整があり減収

営業利益

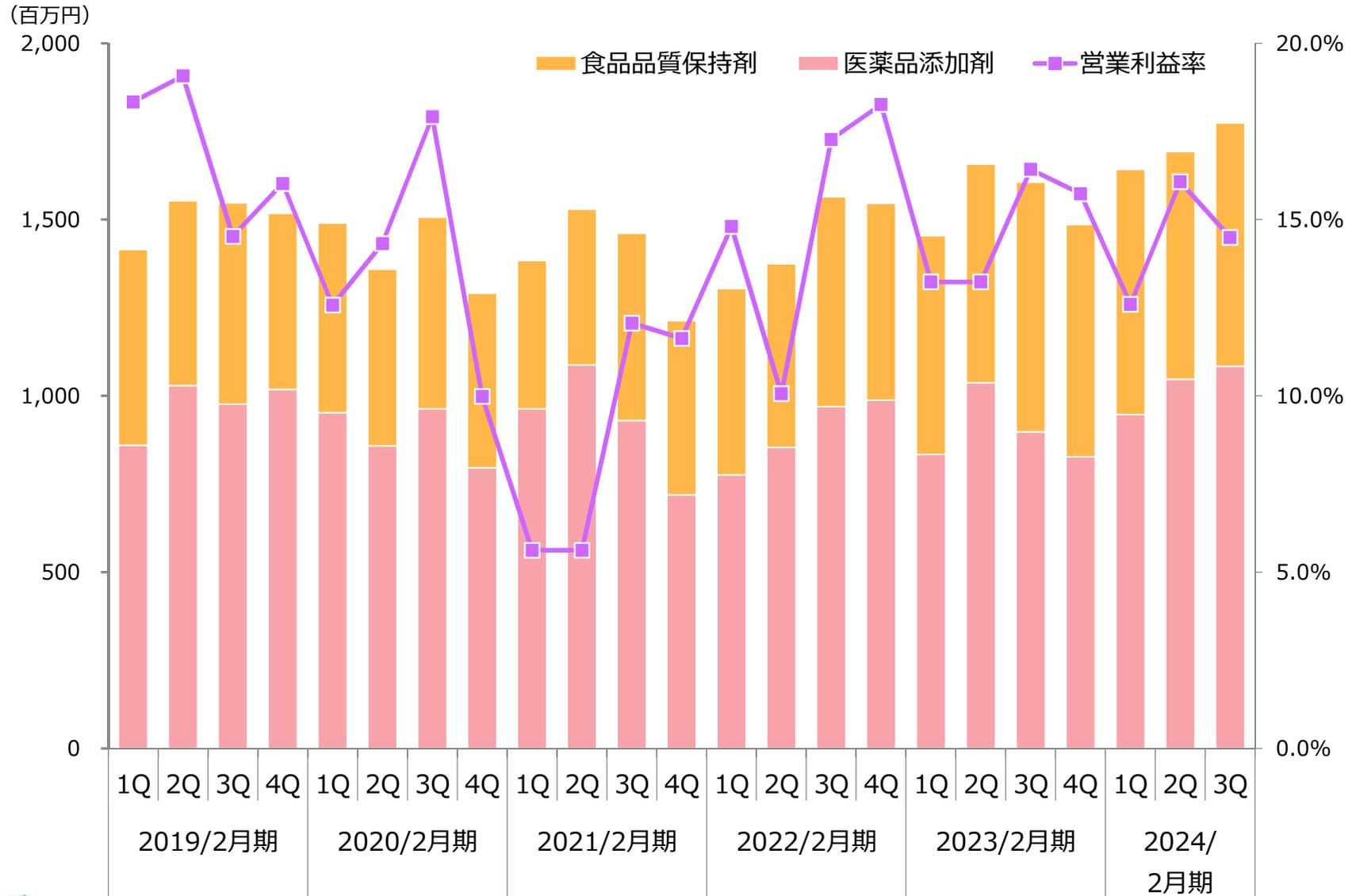
売上総利益率は前年同水準を維持し増益となるも、共通経費負担増から営業利益は前年並

(単位：百万円)	2023/2月期 第3四半期累計	2024/2月期 第3四半期累計	前年比増減	
				%
売上高	4,721	5,113	391	8.3%
医薬品添加剤	2,771	3,081	309	11.2%
食品品質保持剤	1,950	2,032	82	4.2%
(輸出)	(269)	(202)	(△67)	(△24.9%)
営業利益	742	736	△5	△0.7%

化成品部門：四半期推移（分野別業績）

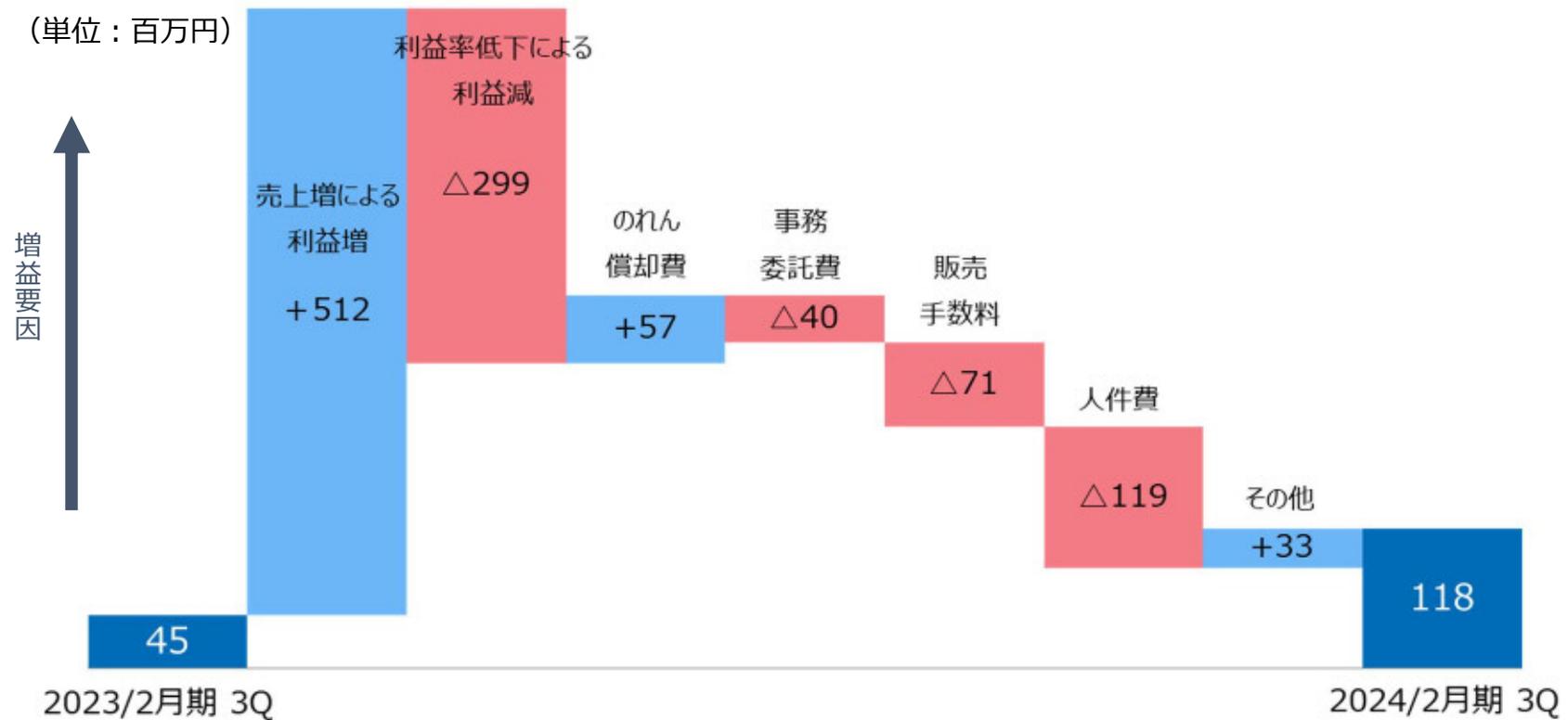
【売上高】

【営業利益率】



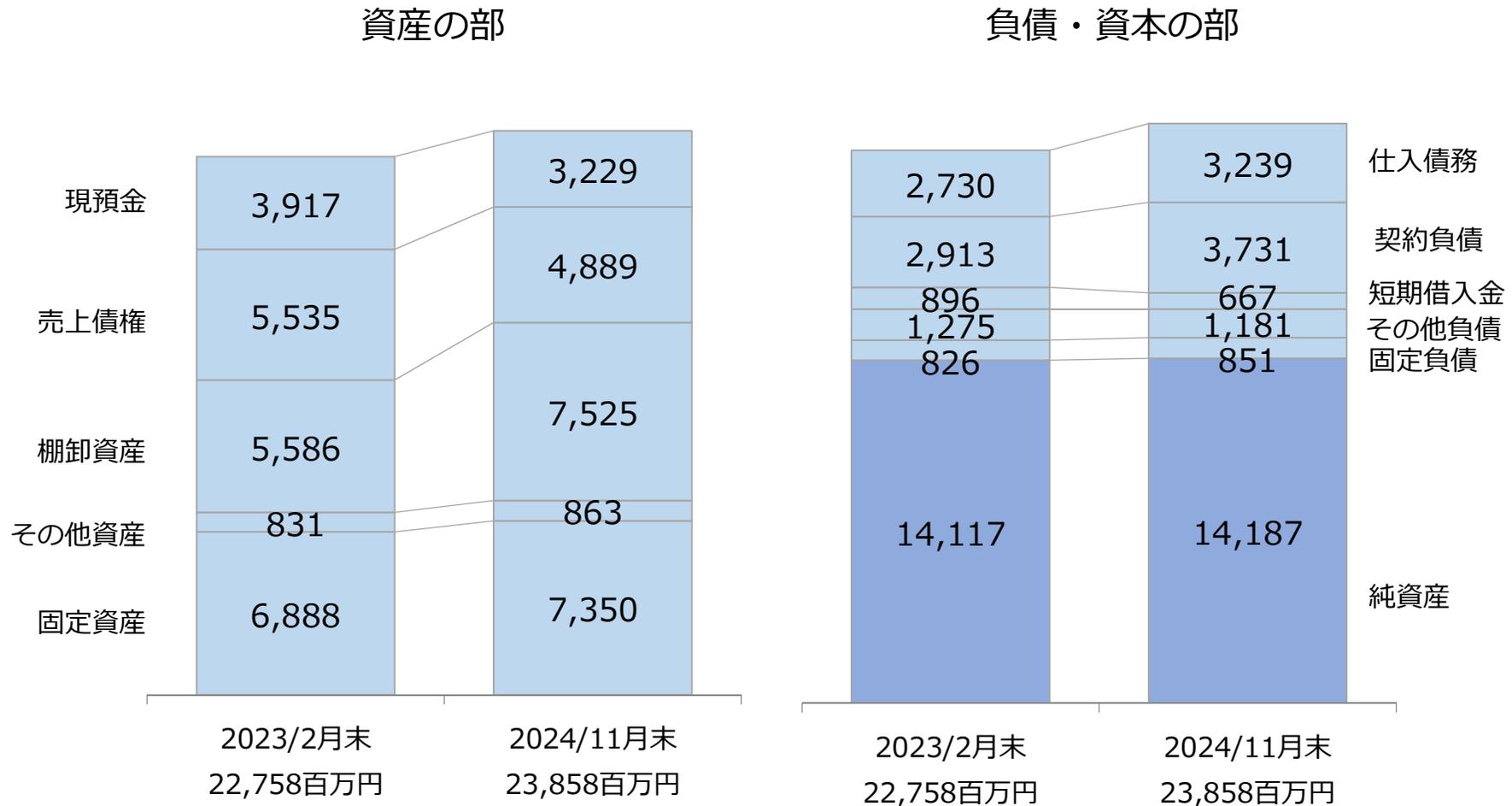
連結営業利益増減分析

- Freund-Vectorを中心とした増収により前年同期比大きく利益増
- 販売管理費はフロイント産業の事務委託費や人件費、海外子会社を含め販売手数料が増加となったが、増収に伴う利益増により営業利益ベースは前年比改善
- 3Q単独ではFreund-Vectorの不採算案件の影響で2Q対比で減益



連結貸借対照表サマリー

- 売上債権の回収が進んだ一方で、グループ各社とも棚卸資産（仕掛品）が大きく増加
- 配当金支払いもあり純資産は微増に留まるが、自己資本比率は59.5%と依然高水準



<トピックス> 【CO2排出量70%削減】 医薬品添加剤のモーダルシフト実施

メディセオとの共同プロジェクトを開始

製品の製造拠点である浜松事業所から岡山県の物流センターまでの輸送について、温室効果ガス削減および来たる物流の2024年問題への対応として、コンテナの調達、列車へのコンテナ積み替えなどを含む物流工程において、(株)メディセオとの共同プロジェクトにて、日本石油輸送(株)、日本貨物鉄道(株)、日本フレートライナー(株)と協力して鉄道コンテナ輸送を利用し、工場から物流センターへの医薬品添加剤のモーダルシフトを開始いたしました。

<本取組みによる成果>

1. 温室効果ガス排出量を削減
従来の大型トラックによる陸送では温室効果ガスを年間約8.2トンの排出しておりましたが、本取組みにより70%にあたる約5.8トンの温室効果ガス排出量削減が見込まれます。
2. ドライバーの労働環境改善
静岡県から岡山県への陸送は長時間乗務となるため、2024年の法改正以降はドライバー2名体制やリレー乗務体制が必要となります。本取組みでは長距離輸送を列車で行うため、ドライバーの労働環境改善と、物流コスト削減につながります。
3. 事故・遅配の削減
輸送手段をトラックから列車に変更することで、交通事故や遅配のリスクが削減されます。より安全に確実な輸送手段となります。

当社は、「世界中の人々の医療と健康の未来に貢献し、豊かな生活と食の安全・安心を支える技術を生み出し、育成していくことを目指します」という経営ビジョンの下、サステナビリティ活動のひとつとして本取組みを実施し、拡大していくことで更なる温室効果ガスの削減を進めてまいります。



上：積込の様子／下：浜松事業所とコンテナ

〈お問い合わせ先〉
フロイント産業株式会社
経営企画部

TEL:03-6890-0767

FAX:03-6890-0870

E-Mail : ir@freund.co.jp

当社IRサイトもご覧ください。 <https://www.freund.co.jp>

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。